

ひとりひとりのしあわせと、
生きる喜びを、いのちの輝きを
ささえたい。

きらめき

VOL. 85

施設ケアマネジメント研究活動支援 意見交換会を開催しました

令和6年9月11日に、施設ケアマネジメント研究活動支援における意見交換会をオンラインで開催しました。この活動は、定期的な意見交換会を継続しながら、入居者・利用者が求める暮らしの実現を軸に「支援者同士のネットワークの構築」「継続的な研修」の仕組みづくりを推進しています。

本年度も昨年に引き続き意見交換会を実施し、参加者の皆様の抱えている課題や各施設の取組事例などを共有する機会を作りました。今回の意見交換では、自立支援や多職種連携、個別ケアなどに焦点をあてて意見を頂きました。参加者の皆さんからは、

- ・自立支援の取り組みの具体的な事例として、「失禁のある入居者に対し、汚染した下着をご自身で洗っていただいている。それにより入居者が下着を隠されることが減った。始まりは一般職員の『入居者が洗える力があるのであれば、ご自身で洗っていただいたらどうか？』との意見から支援が始まった。入居者の自立を阻害しないように、足りないところや危険なところのみ支援するように意識を変えていく取り組みを実施することで、自立支援へつながった。」
- ・多職種連携については、「以前より職員の交代勤務等によりカンファレンスなどの情報の共有が不十分だったが、最近は介護システムや情報共有ツールの進化などから、各職種がPCで確認ができるため以前よりタイムリーに共有できている。」
- ・また意思の伝達が難しい入居者に対して、「アドボカシー機能をより重要視する必要がある。利用者のちょっとした言葉や、寄り添っている介護職員の気づきなどを取り上げて本人の趣味嗜好をくみ取り支援につなげている。」

等の意見が出ていました。積極的な取り組みが多く、刺激のある意見交換となりました。

施設ケアマネジメントにおける主観的事実には、利用者・家族の希望や願望などの不合理なものが含まれます。そして専門職は、利用者・家族が把握できていない客観的事実に「いかに“気づく”か」が大切です。そして主観的事実と客観的事実の交わる部分が解決すべき課題と理解し、その問題点を分析し、解決に向けた具体的な方法を利用者家族も含め多職種で導き出すことが重要です。そのために普段より視点を養い、“気づく”ことの重要性が高いと言えます。また施設における多職種協働では、情報の周知や共有化のための仕組みを構築し、ケアマネジャーが中心的な存在となり課題解決に向けてコーディネートできる体制を整える必要があります。施設ケアマネジメント研究活動支援では、支援者同士のネットワークを構築し、入居者・利用者及び専門職が満足できる支援とつながるよう今後も勉強会や意見交換会を開催していきます。



基礎研修④

「知っておきたい口腔の基礎知識」

10月22日に大牟田文化会館にて基礎研修④、「知っておきたい口腔の基礎知識」が開催されました。一般社団法人大牟田歯科医師会会長兼口腔管理推進室有明地区室長の松田宏一先生(写真下)を講師としてお迎えし、口腔衛生のポイントや医師との連携、予防改善方法などを学ぶことができました。

始めに「口腔管理推進室 有明地区」についての紹介があり、仕組みや流れについて説明頂きました。電話相談から訪問、歯科医院との連携、紹介までを無料で受けることができ、対象地域も大牟田市、みやま市、柳川市まで対応されています。お口の悩みについては何でも気軽にお問合せできるとのことです。

歯の構造や歯周病については、歯に付いている細菌に対して歯ブラシの毛のサイズが大きすぎるため日常の歯磨きで全て取り除くことが難しく、歯科受診による歯石除去が大切とのことでした。歯周病が引き起こす主な病気として、「糖尿病」「高血圧」「認知症」「誤嚥性肺炎」等が挙げられ、様々な病気の入り口となるため注意が必要だと感じました。歯周病と糖尿病はお互いに影響を与え、歯周病菌の増殖と共に糖尿病が悪化することがあるとのことでした。

「お口のチェックポイント」についての説明では、一番最初に確認することとして、「歯がぐらぐらしていないか?」を確認して、もしあった場合は誤嚥の防止をした上で歯科医療機関に連絡してほしいとのことでした。

「口腔連携強化加算」についての説明では、利用者の口腔状態改善のため、歯科医療機関とケアマネジャーや各事業所が連携することの大切さを知ることができました。「口腔の健康状態の評価項目」の説明では、「開口」「歯の汚れ」等の各項目ごとに評価基準があり、関係機関との連携のための情報提供に運用されていることを学びました。

質問の場面では、胃瘻の方の口腔ケアについての質問があり、口腔内の細菌が肺に入ると誤嚥性肺炎になるため、ケアの視点としては細菌の回収を意識してスポンジブラシ等を活用することを教えて頂きました。

研修全体を通して、口腔の状態が本人の生活やその後の人生にも影響を及ぼす、とても大きなポイントであることを学ぶことができました。松田先生の温かい人柄が感じられた研修で、たくさんのことを学ばせて頂き本当にありがとうございました。松田先生の今後のご活躍と共に、FMたんと「津田こういち」さんも応援していきたいと思ひます。



「大牟田みんなの健康展'24」に参加しました！

令和6年9月8日(日)、大牟田文化会館にて「大牟田みんなの健康展'24」が開催されました。大牟田みんなの健康展では、健(検)診コーナー・歯科コーナー・各種相談コーナーなどさまざまなコーナーが開設されました。大牟田市介護支援専門員連絡協議会もその中のひとブースに、来場者の方の「健康チェック」と「介護に関する相談」コーナーを設けました。9時～14時までの時間で、相談は4件でした。また当協議会の各部会の活動内容を衝立に張り出したり、広報誌「きらめき」のバックナンバーを「自由にお取りください」という形で配布したりして、広報活動も行いました。

一方で課題もありました。場所が出入口近くだったからか、チラッと視線を送ってそのまま通り過ぎる方が多いように感じました。来年は何をやっているブースか一目で分かるような看板を設置したり、手に取って持って帰って頂けるような配布物を用意したり、ファミリー層が多かったので子どもも若い世代の方にも介護について理解を深められるような内容についての工夫も必要なのではないかと思ひました。



基礎研修②

「緩和ケア～トータルペインの理解～」

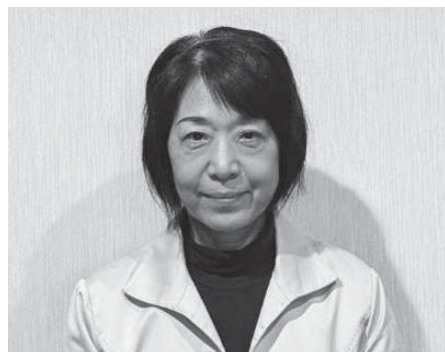
令和6年9月13日、大牟田市福祉課総合相談担当職員で、がん認定看護師の坂井敏子氏（写真下）をお招きし、基礎研修②「緩和ケア～トータルペインの理解～」を開催しました。

講義では、緩和ケアの歴史に加え身体的、精神的、社会的苦痛とスピリチュアルペインの具体的な内容を話していただきました。現場での経験を踏まえた解説はとてもわかりやすく、特に身体的な痛みについては、坂井氏の実体験も加えてお話ししていただいたため、患者様の痛みを身近に感じることができました。

グループワークでは、患者様の訴えからどのような痛みを受けておられるのかを予想し、意見交換を行いました。1つの訴えに様々な苦痛が込められている可能性があることに気づくことができました。その他、現代の患者様へのがんの告知についてもグループで意見交換し、解説していただきました。

個人ワークでは、「死んだら人間はどうなっていくのか」などのスピリチュアルペインの訴えに対し、どのような返答ができるのかを考えました。しかし1人で答えを出すことは難しく、チームでの対応や専門家への相談が必要であることを学びました。

緩和ケアに必要な基礎知識をわかりやすく学べ、患者様の抱える「トータルペイン」への理解を深めることができる大変貴重な研修でした。興味のある方はぜひDVDをレンタルして視聴してみてください。



大牟田市より

本人も家族も支援者も 誰でも相談できる



依存症なんでも相談会

依存症は自分の意志ではやめられない、コントロール障害です。これは、脳の仕組み（報酬系）が影響しており、やめられないのは**決して「根性がないから」「意志が弱いから」ではありません**。依存の対象には、アルコール・薬などの物質やギャンブル・買い物・ゲームなどの特定の行為があります。依存症のことを考えるときに**大事なものは「本人や家族が苦痛を感じているかどうか」「生活に困りごとが生じているかどうか」ということです**。もし、皆様が支援しておられる人やそのご家族が困っておられたら、ぜひ依存症なんでも相談会をご利用ください。

毎月第2木曜日 10～15時
保健センター「らふる」3階

- 相談日の2日前までに要予約
- 相談は個室で行い、プライバシーには配慮
- 依存症回復支援施設のスタッフと福祉課職員が対応

依存症は **回復できる病気** です

支援について ひとりで悩まず まずはご相談ください

予約・問合せ先

大牟田市福祉課総合相談担当

右の二次元コードから予約できます

TEL：0944-41-2672

FAX：0944-41-2662

MAIL：e-fs-soudan01@city.omuta.fukuoka.jp



依存症相談窓口の詳細や
自助グループ等に関する情報は
こちらから→



シリーズ・実践事例

本人の強い希望で在宅療養を選ばれ、自宅で最期を迎えられた事例



【事例概要】

大きな病気もなく仕事もしながら元気に生活をされていたが、体調不良が続き受診した際に胆嚢癌を指摘され入院となるが、手術の結果予後不良の癌末期の状態であると診断された。入院中は不穏状態がみられ、食事や治療も拒否され、本人家族の希望もあり在宅療養となり、自宅で最期を迎えられた。

【クライアント紹介】

A 氏 80代 男性

介護度 要介護5（利用当初は暫定にて利用開始する。）

障害自立度（C1）

認知症自立度（IIa）

現疾患 胆嚢癌末期

急性腎不全・高血圧症

せん妄

既往歴 2024年 腹部大動脈瘤

ADL

移動 車椅子又はストレッチャー

排泄 おむつ使用中だが、尿意ある時は尿器利用

食事 お粥や果物のすりおろし等ペースト状のものや経腸栄養剤を介助で摂取

入浴 訪問入浴

更衣 全介助

健康管理 入院前…かかりつけ医なし

退院後…在宅専門の医院からの訪問診療・訪問看護

家族状況 80代の妻と娘・孫1人との4人暮らし（支援時は他に孫家族3人も同居されている）

支援状況 訪問看護1回/日（月～金・他必要時）

訪問介護2回/日（月～金）

福祉用具貸与（ベッド・褥瘡予防マット・車椅子・スロープ）

経済状況 本人の国民年金・娘の就労による収入

住居 一軒家

【支援経過】

市内のB総合病院より紹介

胆嚢癌で手術されたが、すでに末期の状態での治療もできない状況である。現在は、幻覚・妄想など不穏状態が見られ、食事や薬も拒否されている。腎不全で透析も必要な状況ではあるが、3回された後は実施できていない。治療をされず、本人も退院を強く希望されるため、長女さんが「休みを取って介護したい」と言われ、在宅療養希望のための支援依頼があった。予後は2～3か月で長くても半年との事だが、在宅介護への不安も大きく、緩和病棟への入院も視野に入れ、退院後D病院（緩和ケア）の受診をされることになっている。包括支援センターより介護申請をしていただき、入院中に調査される予定である。

入院中に認定調査

調査時は、ベッド上で拘束衣を着せられ臥

床中。「早く家に帰りたい」とはっきりと答えられる。病院では食事・排泄・清潔・整容すべてが全介助の状態である。また、不穏状態があり、支援に対する拒否も見られる。

病院MSWより、在宅医・サービスの調整ができたなら退院可ですと言われたため、長女さんより支援の意向を確認し、退院前にサービス調整図ることにする。在宅医・訪問看護についてはB総合病院より調整して頂く。

家屋の状況確認のため訪問

屋内は大きな段差はないが、玄関アプローチや上がり框部分の段差が大きい。寝室と考えられている座敷は、居間と続き間になっており家族のだんらんの場所であることを確認する。

自宅退院

退院時はCクリニックの主治医と訪問看護STの方も同席され、状態確認後、家族へ在宅看取りも含めた支援を家族と話し合いながら行うことの説明が行われる。その後サービス担当者会議行う。その際長女さんからは「皆さんの力を借りて、出来るだけ自宅で看取りまでしたい」と話される一方、「初めてのことで分からないことも多いのですが、大丈夫でしょうか」という不安の言葉もある。また、退院後、①家族の希望でご本人への告知がされていないこと、②別居の息子さんは在宅介護について反対であること、③長女さんの年休は最長1か月でその後は仕事復帰をされることなどの情報を再度確認する。

在宅2日目（D病院（緩和ケア）受診）

D病院受診であったが、体調が悪く、車いすで30分以上の車での移動は難しい状況で、

家族のみ受診される。家族希望時は緩和ケア病棟の受け入れ可の返事あり。

在宅6日目

自宅に帰られた後、毎日ではないが幻覚妄想があり、本人家族ともに夜間不眠があった。食事は拒否されることが多く、摂取量の低下がみられた。体調がいい時は訪問リハビリで車いすへの移乗もできたが、ほぼベッド上で過ごされており、褥瘡のリスクが大きくなり体位変換が必要になる。また病院ではおむつに排泄されていたが、自宅では尿器での排尿介助を行われ、介護サービスの提供が2回/日あったが、長女さんの介助量が増えてきている。在宅介護についての不安や緩和ケア病棟への入院についての相談を、医師やサービス担当者へされる。

在宅15日目

食事が数口ずつしか入らず、咳嗽や喀痰も多くなり、呼吸苦も見られ、毎日の点滴・緊急での訪問看護・在宅酸素療法が開始となる。長女さん以外の介護者がおられず、介護負担も大きくなっていることや、休みの期限があることで、緩和病棟への入院を希望され、入院調整されたあとも、在宅看取りへの思いも話される。長女さんの「お父さんの希望通り自宅で過ごしてほしい」という気持ちと「少しでも長く生きてほしい」という気持ちや介護への不安が入り混じっているように思われる。

在宅19日目

介護認定の結果が出て、「要介護5」だった。ご本人は声をかけると返答はあるが、終始閉眼されている。頬はこけ、衰弱されている。長女さんは、あまりよくない状態のため、緩

和ケア病棟への入院に迷いがある様子。主治医に報告し、「急変し入院予定日までに看取りもある」ということの説明を受けられるが、長女さん以外の介護者がいないことを考え、予定通り入院されることになる。

在宅 22 日目

声掛けするも返答がなく、終始閉眼中。訪問時、訪問看護のサービス提供中であつたが、看護師より「いつ状態が悪化し最期を迎えるかわからない状況である」との話があつた。長女さんからは「休んでいる間はできるだけ自分がみたいと思っています」と話される。

在宅 24 日目

入院予定の2日前に、ご自宅で家族に見守られご逝去される。長女さんより明るい声で、家族で見送れたことへの感謝の言葉が聞かれる。

【考察】

相談からご自宅でご逝去されるまで約1か月という短期間の支援であつた。ターミナルの方の支援は数年ぶり、その経過の速さにその場その場での対応で終わったように思う。ご本人様は、入院中の初回面談の時から「家に帰りたい」と話され、拘束衣を着て、面会制限で家族と自由に会うことも出来ず、点滴や処置など痛みを伴うことをされる病院から、家に帰ることができ、家族と一緒に過ごし、拘束や痛い思いも少なく過ごすことができたことはよかつたと思われる。長女さんも最期は「家族みんなで見送ることができました」と明るい声で話されたので、「やり切つた」という達成感があつたと思われるが、支援中の揺れ動く思いに寄り添い対応できたのか考えることもある。

長女さんは、少しでも長く生きてほしいという言葉や退院後急激に身体状況も悪化され、一緒に介護してくれる家族もおられず、自分の仕事復帰までの期間も短くなり、不安と自分がお世話したいという気持ちが入り混じる中での介護であつたと思われ、日ごとに変わる長女さんの思いを聞くこと、発せられた言葉に対するその場の対応に留まっていたように思う。

癌末期の方の療養の在り方は様々で、在宅で最期を迎えられる方もあれば、病院で最期を迎えられる方や、施設で最期を迎えられる方もいる。人生の最期の時をどこでどのように過ごすかについて正解はなく、それぞれに利点欠点がある。本人や家族がどこで・どのように過ごしたい（過ごさせたい）か、それぞれの思いを聞きながら、本人・家族が望む人生最期の場所・時間を提供できるようにすることが大事ではないかと思う。そのため、利用者本人が自分の言葉を発せられている間に意向を確認しておくことは大事であると思う。

今後、人生の最期を迎える方の支援に携わる時は、本人家族から発せられる言葉を受け止め、その言葉の本位を考え、それぞれの利点欠点を説明した上でいろいろな提案を行い、本人家族が自身で納得した答えを出せるように支援していきたいと思う。



リしー随想

No.64



イクメンケアマネで、いつも穏やかで、優しい、やぶつばきケアプランセンターの北山さんからバトンを受け取りました、令和5年3月1日からケアプランサービスフルーリィを開設し、そこでケアマネをさせて頂いています、齋田裕子です。地域包括支援センターに勤務している時、前述したような温かい雰囲気の中北山さんが大好きだったので、この度の依頼には「えっ？おばちゃん以上のおばあちゃんでも良いの？」とびっくりしましたが、何しろ北山さんからの依頼でしたので、二つ返事で受けてしまいました(笑)

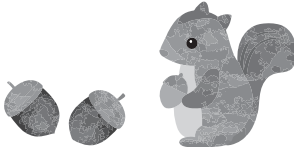
さて、折角だから、自分の事を書こうと思います。

介護保険制度が施行された2000年4月1日からケアマネの職に就き、紆余曲折を経て今年、私は66歳を迎えました。64歳で事業所を立ち上げたことは、自分でもびっくりです(笑)。ただ地域包括支援センターを退職し、2年間を自由に過ごし、次はどうしようか…と考えた時、自分が懸命に一心不乱に取り組めて、達成感が半端なくて、喜ばれて、感謝される仕事は…と考えると、居宅のケアマネしか浮かびませんでした。鈍くさくて、コミュニケーション能力が低くて、歳をとって…と色々思うところも沢山あったのですが、2年間好きなように過ごしている間に一番感じた事は、自分がダメになるかも…という不安でした。自宅でアプリを使って自主トレを始め、2年間で20kgの減量に成功はしたものの(今は以前と同じ体重に戻りましたが…)、物覚えが何となく悪くなっていて、すぐに名前が出てこない現象は以前からありましたが、人の名前だけではなく、物の名前も出てこなくなり「お母さん、この前行ったお店は良かったね」と娘から話しかけられ、お店の記憶が一切なかった時の驚愕…。これが歳をとるという事の現実かと思い、未来の自分はどうかあるのかを今までにない程、真剣に考えました。そして辿り着いたのが、これほど全身全霊をかけられる仕事は他にはない！この仕事をもう一度したい！という強い思いでした。老婆心ですが、まだケアマネをし始めたばかりの方は「大変」の2文字に振り回される毎日だと思いますが、もう少し我慢して、一つ一つ丁寧に乗り越えて頂ければ、その先には「感謝」の2文字が素晴らしい景色と共にあなたを待っています。今の私は幸せです。それぞれ個性が強い大好きなご利用者の方々と、尊敬してやまないご家族の方々と、日々学びの多い時間を過ごせるこの仕事に就けている事は本当に感謝しかありません。まだまだ未熟な私なので、工夫や思慮深くならないと前に進めないという事例に出会うと思いますが、それも楽しんで取り組んでいきたいと思っています。

さて、今回は私がすぐくリスクトしている白川病院ケアプランサービスの野林友和さんにバトンをお渡しします。野林さんはとても優しく、温かく、仕事はきっちりされるのに腰の低い方で、どうしたらこんなに出来るのかしら…といつも羨望の眼差しになってしまいます。別に脅迫したつもりではないのですが、快諾して頂き感謝の思いで一杯です。ありがとうございます。よろしくお願い致します。

○ ケアプランサービス
○ フルーリィ
○ _____
○ 齋田裕子

次回は……………
○ 白川病院
○ ケアプランサービス
○ _____
○ 野林友和さん



です。

12月
開催の

排せつケア市民向けフォーラム 参加者大募集！！

大牟田市福祉課総合相談担当では毎年12月に排尿・排便障害の治療で、世界でも活躍していらっしゃる先生方をお招きし、無料の楽しいイベントを行っています！一般の方も、専門職も、どなたでも参加いただけます。

- ▼とき 令和6年12月8日(日) 午後1時～4時(開場12時30分)
- ▼ところ おおむたアリーナ 1階 会議室1～4
- ▼内容 右のチラシをご覧ください。
- ▼申込 右のチラシの二次元バーコードからか、氏名、参加人数、連絡先を直接、電話またはファックス、福祉課総合相談担当(電話41-2672 FAX41-2662)へ。
チラシは上記迄、ご連絡下されば事業所までお持ちします！

当日、会場内では、排せつケア用品・排せつに関連する食品・福祉用具等10社～15社の企業が展示を行い、新製品の説明や試供品をもらえるだけでなく、介護保険で利用できる介護ロボットの体験もできます！

排せつが整うことで、自分らしく気持ち良く過ごすことができ、ADLや認知機能の低下予防(介護予防)にもつながります。また、健康寿命の延伸や介護負担の軽減にもつながるので、是非、多くの方に参加を呼び掛けていただくと嬉しいです！

排せつケア [コンチネンスタケ推進事業]
市民向けフォーラム
「オシッコやウンチのトラブルで困らないために」
令和6年12月8日(日) 13:00～16:00 (開場12:30)
ところ: おおむたアリーナ 1階 会議室1～4
(大牟田市宝塚町2丁目92番地 大牟田市総合体育館)

【講演会&意見交換会】

- 第1部 講演会
「知って得するオシッコの話」
医療法人 泉三信病院 武井 実樹雄 泌尿器科部長
- 「知って得するウンチの話」
医療法人社団 聖育会 海南療育病院 前田 祥太郎 部長
- 第2部 「皆で語ろう!オシッコとウンチのこと」
排せつについての疑問・相談をみんなで楽しくおしゃべりします
- 第3部 「聴こう!知ろう!専門家からのアドバイス」
配剤で出展場所に、講師のかわりやすくお話しします

定員: 先着80名程度(当日受付もあります)
▶申し込み方法: 下記のいずれかの方法でお申し込みをお願いします。

①ここから申込み 	② 電話での申込み 連絡先0944-41-2672 【大牟田市福祉課総合相談担当】
③ FAXでの申込み FAX: 0944-41-2662 【※氏名、参加人数、連絡先の電話番号を記載し、上記までFAXをお願いします】	

◎排せつケア用品の展示説明コーナー有。試供品ももらえます!!
(エコバックを持参ください)
～手話・文字による伝達をご準備しております～
主催: 大牟田市 協賛: 大牟田市議会
大牟田市介護専門員連絡協議会が協賛しています

編集後記

朝夕、涼しくなり秋らしくなってきましたが、皆さんは変わらず多忙な日々を過ごしている事と思います(苦笑)

多忙な中でも、今年は日本人選手の活躍には目を見張るものがありました。パリオリンピック・パラリンピックでは大牟田市・荒尾市出身選手の活躍。野球では、毎年大活躍の大谷選手。日本人選手が頑張っているの、自分も頑張らなきゃと思います。ただ気持ちはあるのですが、40半ばになると体が追いついてこなくなりました(T-T)

趣味でランニングをしていますが、サボりまくっているの、来年のマラソン大会(フルマラソンではないですよ)までには体力をつけたいと思います。仕事も趣味もですが、目標があるから頑張れるのかなあ、と。

皆さんも身近な目標を見つけて、ちょっとだけ頑張ってください。頑張った分、自分へのご褒美もあげてくださいね！寒さ厳しくなりますが、ご自愛ください。

(おはぎは粒あんなこ)

編集・発行 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 広報事業部会
事務局 大牟田市福祉課内 (TEL: 0944-85-0470 FAX: 0944-41-2662)
大牟田市介護支援専門員連絡協議会ホームページ <http://omuta-cm.net>